

広報



第88号
(季刊春号)

平成29年

5月発行

腹部超音波検査とは

土崎病院副院長 小林 匡

腹部には多くの内臓が入っています。口から入った食べ物は胸部にある食道を通過して腹部へ運ばれます。胃、小腸、大腸と通過しながら消化吸収が行われ最後は肛門から便として排泄されます。胃で消化された食物は小腸の一部である十二指腸に入ります。十二指腸には肝臓で作られる胆汁や膵臓で作られる膵液が流れ込む管(胆管や膵管)が開いています。

腹部の中には食物の消化吸収とは関係のない臓器もあります。両脇の背中側には尿を作る腎臓、両側の腎臓の上にはホルモンを産生する副腎、左の上腹部の横隔膜のすぐ下には免疫に関係する脾臓もあります。腎臓で作られた尿は尿管を通過して下腹部の膀胱に貯まります。女性の場合には下腹部に子宮や卵巣もあります。

腹部超音波検査は腹部にある臓器の検査に使われます。腹部の皮膚に当てたプローベと呼ばれる機械から超音波を臓器に向かって当て臓器から反射して戻ってきた超音波を検出して内部の様子を観察します。

身体表面から行う超音波検査は内部に気体が存在する臓器の検査には向いていません。内部が詰まっている臓器や液体が入っている臓器である肝臓、胆のう、膵臓、腎臓、脾臓、膀胱等が対象になります。

超音波検査は身体に負担をかけることはないため、腹部内臓の病気が疑われる時には最初に行われることの多い検査です。仰臥位の状態で検査を行います。プローベと皮膚を密着させるためにゼリーを塗り検査を始め、途中で腹部を膨らませたり呼吸を止めてもらったり、また側臥位や上半身を起こしてもらうこともあります。

超音波検査でどのような病気がわかるのでしょうか。この検査は臓器の機能ではなく、主に形態的な異常や内部の様子を調べる検査です。腫瘍(肝臓癌、胆のう癌等)や結石(胆のう結石、腎結石等)、肝臓内の脂肪蓄積状態、腫瘍や結石による胆管や膵管、尿管の拡張所見等の他に体表からの超音波検査に不向きな消化管の胃がんや大腸がんが発見されることもあります。

現在、超音波検査は腹部だけでなく心臓や血管の検査、甲状腺の検査、整形外科の分野でも使われています(少し苦痛ですが消化管の内部から超音波を当てて検査をすることもあります)。

腹部超音波検査は内臓の異常が疑われるときだけではなく健診でも行われることの多い検査です。苦痛はありません。医療機関でこの検査を勧められたらためらわずに受けて下さい。



皮膚科よりご案内

土崎病院 皮膚科 野口 奈津子
(秋田大学医学部附属病院皮膚科医師)



病院関係者の方々にはいつも大変お世話になっております。この度は伝統ある「はまなす」への寄稿に、非常勤の立場であるにもかかわらずご指名いただきありがとうございます。

当院皮膚科は現在、週1回火曜日の午前中のみ（受付11時30分まで）、秋田大学医学部皮膚科・形成外科からの派遣医師が担当しております。対象疾患は、皮膚科一般（水虫などの感染症、湿疹、皮膚掻痒症など）ですが、上記のように限られた診療体制であることから、詳しい検査が必要な疾患、難病や皮膚腫瘍などの疾患については、他院皮膚科や大学病院皮膚科・形成外科等へ紹介させていただくことがあります。

秋大病院皮膚科・形成外科では、このような疾患の患者さんが日々秋田県全域から紹介受診されております。中でも最近新聞で取り上げられた尋常性乾癬（皮膚が赤くなって盛り上がり、ふけのように剥がれ落ちる慢性の皮膚病）は、劇的に症状に効果が見られる生物学的製剤が使用できるようになり、県内で使用できる医療機関が秋大附属病院のみということもあって、多くの医療機関や患者さんから問い合わせをいただいております。生物学的製剤は効果を維持するため、使用を続けなければならず費用が大きな負担となりますが、高額療養費制度などが利用できる年間の自己負担が軽減されます。副作用として抵抗力が弱まるために感染症への注意が必要です。気になる方はまずは当院皮膚科やお近くの皮膚科へ相談していただき、大学病院へは紹介状を持っての受診をおすすめいたします。

一筆啓上つかまつる

浄土真宗大谷派仏光山正光寺
総代・護持会会長

長谷川 忠和

オレは今、老人ホームの世話やがになってい
る。2月14日以来だ。

昨年末から土崎病院に入院、それから此
処だ。「しおさい」という高齢者の下宿屋
さんなんだ。

目隠しされて玄関ロビーに立ったなら、
温泉ホテル？かとも見まごうばかりだ。
ドリップコーヒーの香りが漂い、小洒落
たフラワーアレンジメントが随所を飾る。
オレは此処を「ユートリティースペース
230」と友人に紹介している。

最近になって、足掛け18年間使った愛車
に故障があった。ワードプロセッサもイ
カれた。原因は御高齢のせいだろう、冬を
越せなかった。気分転換にドライブと、維
持費の軽いN-ONEヌワンを注文した。遅くて
も8月には手に入る。

免許は、75歳で返納だ。主治医の志村先
生には、「後5〜6年、生かしておいて下
さい。」とお願ひしているんだ。

悪戯に詠んだ歌を載せてもらった。どう
ぞ御笑和下され。

こたびはグッドバイ カミヨ、オソバニ

不甲斐なり 喰えぬと思ひ飯三膳

今、この日を如何とさに悦たのしむ

困碁こまよりも 駒さすよりも我の興

夕宴ゆうげに添そえる一杯の美酒さけ

スローダウン 何のゴトかおもと推おいさや

我が老後の姿也オイサラバエ すがたなり





H28年度 秋田県認知症看護認定看護師ネットワーク研修会 「認知症患者の転倒予防」について

1 病棟 看護職 佐藤 早苗

H29年3月11日(震災から6年)

「認知症患者の転倒予防」について、福島県立医科大学看護学部：坂本祐子先生よりご講義していただきました。

今後ますます高齢化社会になり、2025年には全国で認知症を患う人の数が700万人を超え65歳以上の高齢者のうち5人に1人が認知症に罹患するといわれています。高齢者の特徴や、認知症のタイプや症状、特性を理解しケアすることがより良い「予防」につながるのではないかと、予防ケアにはどんな方法があるのか学ぶ目的で今回、研修に参加させていただきました。私自身福祉施設での勤務経験もあり「認知症の人の転倒」は永遠のテーマであったため、とても興味深いものでした。

講義を大きく分けると、①高齢者の身体的特徴、②認知症のタイプと特徴、③転倒のリスクとアセスメント、④予防ケアに分けることができました。①高齢者歩行の特徴は、すり足・腕の振りの減少、不安定な方向変換、前傾姿勢となり視線が下になるため立ち上がり時、歩きだし、前屈時、段差につまづき転倒してしまいます。このことから、いつ、どんなときに見守りが必要になってくるのかがわかりました。②認知症は、アルツハイマー型・脳血管性認知症・レビー小体型認知症があり、共通している病態もあれば、違った特徴もありそれぞれによって対応なども変わってきます。③転倒のリスクとアセスメントでは、高齢者だから転倒しやすいのか、認知症だから転倒しやすいのか、それともどちらも原因なのか、転倒リスクの高い優先順位をつけ、評価する必要があります。そして生活レベルで重要なのが、過去1年以内の転倒歴のある人は再転倒のリスクがとても高いので、欠かせない情報だということを知りました。転倒リスクを知るポイントとして、椅子から立ち上がって歩き、3m先の目標物

をターンし、再び3m戻って椅子に座るまでの時間が16秒以上かかる人はリスクが高くなるそうです。又、睡眠薬内服と転倒も大きく関係しており、どんな種類の睡眠薬を内服しているのか、薬によっても転倒のリスクは上がるとのことでした。④予防ケアは、転倒予防に目指すものとして専門職の「気づく力」「見守る力」、身体機能と認知機能の両者から、評価・把握し適切な医療とケアが予防につながっていくということでした。そして「医療や介護の倫理や価値観を優先せず、その人その人の心に添った転倒予防プログラムを工夫」していかなければなりません。しかし「認知症の人の転倒はゼロになることはない」ということなので、転倒してしまっても骨折しない工夫（環境調整やフットケア、リハビリなど）や努力をすることが大切なのだということを知りました。転倒しそうだなと思うだけではなく、言葉としてあげ、みんなで予防対策を検討していくことが大きな怪我を防げることに繋がるのではないかと考えさせられました。

研修を通して、予防ケア、認知症と高齢者、そして転倒リスクの特徴や特性を学ぶことができました。今後の看護に役立てていけるように、研修の内容を供用していき統一したケアが実践できるよう努力していきたいと思えます。





秋田キャッスルホテル メディカル営業部

土崎病院責任者栄養士 小林 ひとみ

こんにちは。秋田キャッスルホテルです。

患者様、利用者様の楽しみであるお食事の提供を担当しております。

当社は、秋田市中通に位置し、今年で47周年を迎える東北を代表するホテルです。ホテルならではの「食」のノウハウを活かし、おいしく栄養バランスに優れたメニュー提供をさせていただいております。

秋田の食文化を知るからこそ、秋田の旬にもこだわり、冬はだまご鍋、夏の土崎曳山祭りの際は「カスベ」など季節を感じて頂けるよう努めております。

毎年なぎさ祭りでは模擬店を出店しており、地域の

皆様にもお越しいただいております。今年も開催予定ですので、是非遊びに来て下さいね。

これからも安全でおいしい食事を皆様に楽しんで頂けるよう、スタッフ一丸でがんばっていきます。



なぎさ通所リハビリテーションです!

なぎさ通所リハビリテーション 主任 大野 高洋

なぎさ通所リハビリテーションは昨年、ご利用していただいている皆様のご愛顧により無事20周年を迎えることが出来ました。

20年前の開業初日に御利用された人数は5人であったと聞いております。あれから20年、今では一日の御利用者さんの人数も30人を越え、40人近い方々に御利用していただく日も増えてまいりました。

なぎさ通所リハビリテーションも21年目をむかえ、平成29年4月より、現在御利用いただいている皆様の利用環境の向上と、今後、より多くの方々に御利用していただくことを目的に、通所リハビリテーションフロアの増築工事を実施する運びとなりました。現在の2階ベランダスペースを拡張し、ゆったりとしたスペースで過ごしていただき、心も体もリラックスしていただけるよう努めてまいりたいと思っております。

工事期間は4ヶ月を予定しており、土崎港曳山祭り

後の7月下旬の完成オープンを目指しております。

今後ともなぎさ通所リハビリテーションをよろしくごお願い致します。

平成28年9月に、なぎさ通所リハビリテーションでは、御利用時のリラクゼーションを目的とした「おもてなし足湯」を導入いたしました。

導入以来たくさんのお利用者の方々に体験していただき、大変好評を得ております。

今後も御利用される皆様に喜んでいただけるような取り組みを実施して行きたいと考えております。



足湯を楽しんでいる様子

「ゲレンデと温泉を楽しむ集い」 に参加して

介護老人保健施設 なぎさ 碓子 暁輝

平成29年2月17日・18日の2日間、久盛・運忠会グループ合同の「ゲレンデと温泉を楽しむ集い」に参加しました。

1日目は早朝に秋田緑ヶ丘病院を岩手県の雫石スキー場へ向かい出発しました。しかし、当日は天候が優れず、雫石スキー場だけでなく周辺のスキー場も強風の為リフトが運行していませんでした。その為、急遽リフトが運行していた岩手県北上市の夏油高原スキー場へ、予定を変更し向かいました。ところがこの日はどこまでも天候に恵まれず、夏油高原へ向かう途中、晴れ間が見えていた空は到着と同時に土砂降りへと変わり、天候悪化の為ゴンドラ運転を停止するアナウンスが流れ、この日のゲレンデはおあずけとなりました。一行は一路盛岡へ引き返し、昼食後に岩手手作り村へ立ち寄り、宿泊先であるホテル紫苑へ向かいました。ゲレンデを楽しむ事はできませんでしたが、温泉につかり日頃の疲れを癒す事ができました。日中降り続いた雨は、夜に雪へと変わり、露天風呂を楽しみつつ、明日のゲレンデコンディションへ期待をし1日目終了しました。

2日目、雨は上がったものの風がおさまっていなかった為、秋田田沢湖スキー場へ移動してのゲレンデ滑走となりました。心配していた天候は時折晴れ間も見え、

田沢湖が一望できるなど、1日目とは打って変わって最高のコンディションとなりました。

普段の職場とは違い同僚たちと体を動かしての交流はとても楽しく、また当日は田沢湖スキー場でスキーマーグルのワールドカップが開催されており、間近で世界のビックプレーを観戦する事ができ、とても有意義な1日となりました。

今回の集いで、同じ職場だけでなく普段接する機会が少ない久盛会の方と数少ない交流の場に参加し、コミュニケーションを深める事ができました。職場から離れているからこそ感じられる雰囲気や共有する事ができるこの集いの魅力を、法人内で発信し、今後さらに参加者が増える事でより一層盛り上がり、有意義なものにしていきたいと感じました。そして私自身も、グループ内行事へ積極的に参加していきたいと思いません。



編集後記

新緑が美しくさわやかなころ、思わず外に出かけたい季節を迎えました。先日、弘前までドライブに行ってきたのですが、通り沿いのりんごの花芽も膨らみ、また、立ち寄った道の駅の店先には山菜などが並び、初夏を感じることができました。これからの季節、段々暑さが増し、日差しが強くなる日も多くなります。皆さん、出かけるときは日焼け・紫外線防止対策は忘れずに、水分補給もこまめに行いましょう。
(鈴木)